

# 大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

## Outcome report

計画名 Plan	「コケと動物」の関係解明に向けた国際的な基盤の構築—IABでの発表
氏名 Name	池田颯希
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科・生物科学専攻
渡航国 Country	台湾
渡航日程 Travel schedule	2025年10月9日 ~2025年10月18日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

### 渡航計画の概要 Outline of the travel plan

私はこれまで、コケ植物とそれを食べるダニ類の種間関係を研究してきた。台湾にて、コケ食性ダニ類のサンプリングを行ったのち、国際コケ植物学会台湾大会（IAB 2025）に参加しこれまでの成果を発表すること、そこでコケ植物研究者と国際的に交流すること、が本渡航の目的であった。

サンプリングは、現地研究者の頼亦徳博士、京都大学 博士課程学生の上西太郎氏と行程を共にした。初日朝に桃園国際空港を発ち南下しながら、宜蘭、台中、花蓮、台東、恒春半島を巡った。台中駅で同行者と別れたあと、学会手配のバスに揺られ、南投にある台湾生物多様性研究所に向かった。そこで開催された IAB 2025 に参加し、18日に帰国した。

### 成果 Outcome

#### サンプリング

私にとって、これが初めての海外調査となった。本渡航では、カウンターパート研究者との共同研究の締結、調査行程の設定、採集許可申請、標本運搬など、海外調査に不可欠な一通りの手順を経験できた。これらは、将来の海外調査に向けて大きな自信となった。

10/9-12 に渡る 4 日間の調査行程は、頼博士、上西氏と相談し渡航前に概ね決まっていた。およそ予定通りに採集を進め、相当な成果を得た。くわえて、先輩研究者である両氏と採集を共にした経験は、私にとって貴重な財産となった。各地で台湾の風土について質問すると、頼博士は即座に答えてくださった。上西氏が渡航前に定めた採集地点は、対象分類群の限られた生息環境を正確にとらえており、次々と難しい採集を成功させていた。両氏の研究態度を肌で感じ、優れたフィールドワーカーになるためには、研究対象のみならず、それを取り囲む自然ごと理解することが重要だと思うに至った。

#### IAB 2025

13-15 日に台湾生物多様性研究所で学会が、16-17 日に杉林溪森林生態渡假園區でフィールドトリップが行われた。学会は温かい雰囲気、プログラムの合間のお茶休憩の際などに多くの研究者と交流することが出来た。自身の発表内容は動物学寄りであったが、コケ植物研究者にも興味深く受け止めていただけたように思う。共同研究に前向きな研究者とも出会え、有意

義であった。プログラム終了後には、寮の食堂に集まって参加者と談笑した。仲良くなった台湾の大学院生が絵をプレゼントしてくれ、一生の宝物が増えた(図1)。フィールドトリップでは、コケ植物研究者の三者三様のサンプリング方法を観察でき、興味深かった。

### 今後の展望 Prospects for the future

学会では、世界中の研究者が一堂に会して一つの問題を議論し、さらには共同研究を取り決めていく様子を目の当たりにした。論文だけを読んでいると忘れがちであるが、科学は、人の営みによって積み重ねられてきたものなのだと再認識した。私もその一員となって活躍できるよう、さらなる研鑽を積んでいきたい。さしあたり、英語能力の向上に力を入れる必要がある(私が会場で最も拙かったかもしれない)。今後は海外調査にも積極的に取り組み、国際的に活躍できる研究者を目指したい。



図1. コケ植物の胞子体の上で逆立ちするダニ類. 黎士華氏制作. 氏の許可を得て掲載.